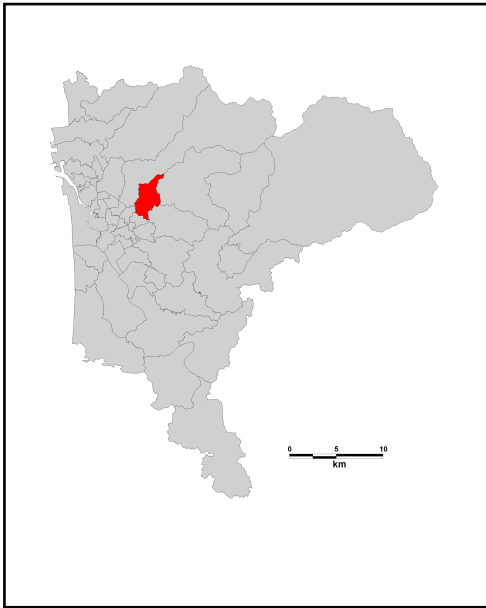
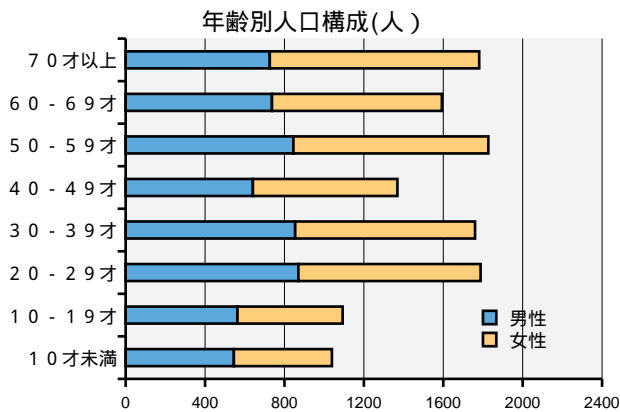


## 位置図



## 1 居住者の現況

人口(人)	12,250
世帯数(世帯)	5,645
65歳以上人口(人)	2,515
65歳以上世帯(世帯)	1,067
5歳未満人口(人)	531



## 2 建物に関する指標

### 構造別建物棟数(棟)

木造建物	3,960
非木造建物	524
合計	4,484

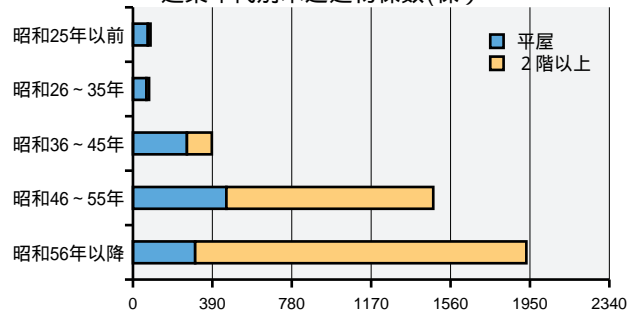
### 建築年代別木造建物棟数(棟)

建築年	平屋	2階以上
昭和56年以降	306	1,627
昭和46年～昭和55年	459	1,016
昭和36年～昭和45年	265	122
昭和26年～昭和35年	66	13
昭和25年以前	73	13

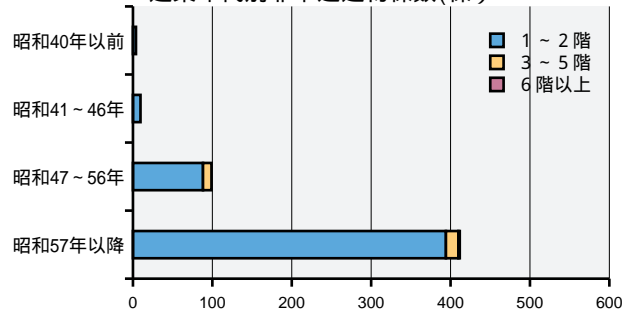
### 建築年代別非木造建物棟数(棟)

建築年	1～2階	3～5階	6階以上
昭和57年以降	394	16	2
昭和47年～昭和56年	88	11	0
昭和41年～昭和46年	9	0	0
昭和40年以前	4	0	0

### 建築年代別木造建物棟数(棟)



### 建築年代別非木造建物棟数(棟)



## 自然的・社会的基本指標

手形山の東側の南北に長い地域である。中南部は平坦な地形であり、主要な施設や建物が集中している。北側は山地である。1983年日本海中部地震では、南部の低地部の一部で液状化が発生した。人口構成は20歳代を中心に若い年齢層の人口が多い。65歳以上の高齢者層は、全体の21%である。非木造建物は全建物の1割強を占める。昭和56年以降の建物は全体の52%である。

### 3 急傾斜地等の現況

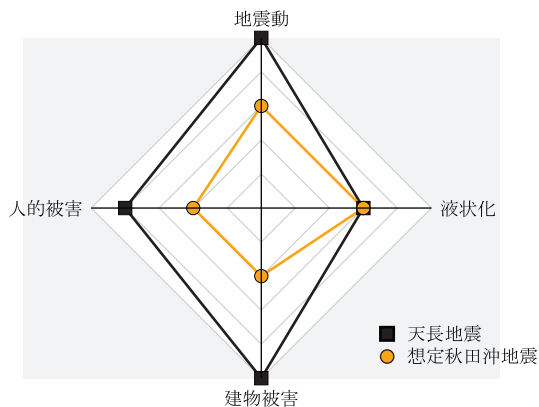
指定種別(箇所数)	箇所名
急傾斜地崩壊危険箇所(13)	手形山北町、手形山東町、鳥越、手形山中町、蟹沢、堤敷、広面推子蛇野、赤沼、推子他
なだれ危険箇所(11)	推子、赤沼、広面字蟹沢、手形山中町、近藤沢、柳田字鳥越他
地すべり危険箇所(1)	手形山
土石流危険渓流(14)	鳥越沢、手形山北町沢、近藤沢、蛇野沢他

### 4 地震被害に関する指標(地震被害想定結果)

#### ■ 被害想定結果一覧表

	天長地震	想定秋田沖地震
平均震度	6 強	5 強
液状化危険度	ランク 3	ランク 3
木造建物大破数(棟)	537	38
非木造建物大破数(棟)	41	3
死者数(人)	49	3

被害想定結果レーダーチャート



レーダーチャートの見方

このレーダーチャートは、地震被害想定調査の主要な結果に基づいて、各項目毎に最も危険度が低い場合を1、最も危険度が高い場合を5として点数化してグラフに表したものです。グラフのひし形の面積が広いほうが総合的な地域の危険度が高いことを示しています。

#### 地震時危険要素

天長地震の想定では、平均震度が6 強と非常に強い地震動となる。液状化する可能性は、中央部および南東部の一部で高くなる。建物の大破被害は550棟以上となり、死者も50人程度発生するなど甚大な被害となるものと想定される。

想定秋田沖地震では平均震度が5 強となる。建物大破棟数は10棟以下となり、死者は発生しないものと想定される。

#### 津波に対する危険要素

津波による浸水の危険性はないものと見られる。

### 5 防火・防災施設に関する指標

#### ■ 消防関連施設

消火栓数(箇所)	129
防火水槽(箇所)	12
消防車台数(台)	7
消防ポンプ数(台)	2
消防団員数(人)	49

#### ■ 避難所/避難場所

避難所/避難場所	屋内/屋外	収容人員(人)
広面小学校	屋内	346
東部公民館	屋内	148
広面小学校グラウンド	屋外	5,700

#### ■ 救急・防災関連施設

種別	名称/箇所数
管轄消防署	城東消防署
管轄警察署	秋田東警察署
病院数	14
最寄の救急告示病院	秋田大学医学部附属病院
自主防災組織数	29

#### ■ 学校区内の主要な公共施設

施設名	住所
東部公民館	広面釣瓶町13-3

#### 防災上の課題と対策

1983年日本海中部地震では、学校区の南部で液状化が発生していることから、今後も大地震の際には液状化の発生が懸念される。学校区内には緊急告示病院(秋田大学病院)やその他の医療機関が多くある。木造建物のほぼ半数が旧耐震建築物であり、地震時にはかなりの建物被害と人的被害の発生が予測されている。避難所(屋内)の収容可能人員は、全人口の約4%であり、避難者を収容しきれないおそれがある。手形山地区では造成団地が形成されているが、土砂災害危険箇所も多く分布していることから、避難経路等の選定には注意が必要である。人口の年齢構成は比較的偏りのない構成となっているものの、人口総数の漸減する一方で、高齢者比率が急速に高まっている地区を含むことから、住民相互の助け合いが一層期待される場所である。正しい防災知識並びに防災関連情報の周知・意識高揚と、住民による日常の防災訓練等の防災活動への支援が必要である。